

専門性の維持・継承を目指した学校間の連携の在り方に関する研究 ～遠隔授業システムを活用した合同授業を通して～

研究推進の意義

札幌視覚支援学校

遠隔授業システム

各盲学校

道立特別支援教育センター

当センターの役割：①遠隔授業システム活用のノウハウの整理・提供
②3校以上が同時に接続する際の中継点としての機能
③視覚障がい教育の専門性向上に関わる研修の促進

北海道の視覚障がい教育の現状と課題

- ①在籍する幼児児童生徒数の減少により集団で学び合う機会が減少している。
- ②視覚障がい教育の専門性の維持・継承が難しくなっている。
- ③「視覚障がい教育拠点校」としての札幌視覚支援学校の機能の充実を図る必要がある。

札幌視覚支援学校と各盲学校が遠隔授業システムを活用し、合同授業等に取り組むことを通じて、専門性の維持・継承を効果的・効率的に進めることができるよう、当センターが連携を促進するための支援を行う。

札幌視覚支援学校の視覚障がい教育教育拠点校としての取組をサポート

当センターとして

遠隔授業システムの活用

幼児児童生徒が学び合う機会の提供
〔札幌視覚支援学校と函館盲学校の接続〕

- ①寄宿舎生間（舎友会）の交流
- ②寄宿舎の行事（クリスマス会）の合同開催
- ③中学部第2学年の授業（自立活動・英語）の実施



専門性の維持・継承に関する研修会の実施
〔全ての盲学校間で接続〕

- ①札幌視覚支援学校主催の「北海道視覚障がい教育専門性向上研修会」での取組
- ②「北海道視覚障害教育研究大会旭川大会」での取組
- ③当センターの自主的コース「特別支援学校専門コース」での取組

実践

評価

映像、音質ともに、高い品質で接続できたことにより、普段、教師とのマンツーマンで学習することが多い生徒にとっては集団で十分に学び合うことができる機会となった。

遠隔授業システムの講義資料を提示する機能を活用することにより、受講者が実際の会場にいない場合においても、効率的に研修を行うことができた。

内容・方法

成果と課題

- 遠隔授業システムが、視覚に障がいのある生徒の合同授業において、集団で学び合うという視点から、効果的に活用できることが実証できた。
- 専門性の維持・継承という視点から、道立教育研究所附属情報処理教育センターとの連携や視覚障がい教育室による専門的な研修といった当センターの特徴を生かしながら、札幌視覚支援学校の取組を支援することができた。
- ▲ 遠隔授業システムを効果的に活用できる学習形態等が明確でないため、他の教科等での取組へと発展しにくい。

北海道立特別支援教育センター

〒064-0944 札幌市中央区円山西町2丁目1-1 (011) 612-6211